

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松成子 / 同行調査員 中村朋美

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、メイン理念に4つのサブ理念を示し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての役割を考えた内容の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビングや事務所に明示している。理念についての協議はなく、職員間で理念を共有しての日々の実践にまでは至っていない。	○	理念について職員間で話し合う機会を持ち、管理者と職員が理念を共に意識しながら、日々のサービスに取り組むことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、買い物は地域の商店を利用し、地域行事にも参加するなど地域とのつながりを大切にしている。中学生の職場体験などを受け入れている。町内会長と連絡を密にとり交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらい、活用方法を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組む段階に至っていない。	○	評価のねらいや意義を全職員が理解するよう努め、サービスの質の確保・向上を活かして行くことが求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みやサービスの実態など報告し、話し合いの中で率直な意見をもらい、その結果、災害対策に協力してもらうなどサービスの向上に具体的に活かしている。		

グループホーム和みの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、各種手続きなど相談・報告を行い連携を取っている。運営推進会議にも交代で参加してもらい、意見やアドバイスを受けるなど交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「今月の様子」として一人ひとりの日頃の様子や健康状態など詳しく文書にして送付している。金銭出納帳のコピーも送付し、面会時に確認してもらっている。職員の紹介は、家族会などで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、入居時に説明している。年2回家族会を開催し、意見を聞く機会を設けている。運営推進会議にも家族代表に参加してもらい、意見や苦情を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者・管理者は、利用者や職員の馴染みの関係作りの重要性を認識しており、採用条件や職員数など考慮し、職員の離職を最小限に抑えようと対応している。職員が代わる場合にも十分な引継ぎ期間や、ベテラン職員との勤務など利用者のダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は努めて受講するようにしているが、職員各自に応じた段階的・計画的な研修の機会が確保されるに至っていない。	○	代表者や管理者は、職員育成について具体的な方針や計画をたて、外部研修、ホーム内での勉強会などの機会を確保することが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加入し、講演などに参加している。同地域のグループホームの行事に参加するなど交流を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には、本人、家族にホームを見学してもらったり、入院先に何度も訪問し馴染みの関係作りに努めている。家族と相談し一泊体験入所を勧め、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から学ぶという姿勢を共有しており、利用者との会話を大切にしている。できる事はしてもらい、共に支え合い和やかに生活できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人・家族から思いや意向を聞いている。また、職員の気づきを記録に残すよう工夫している。面会時や家族会のときなど機会を捉え、情報の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の記録と本人や家族の意見、主治医の意見などを参考にカンファレンスを実施し、職員や関係者それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月「今月の様子」として一人ひとりの日頃の様子や健康状態など、ミーティングで話し合い見直している。計画の期間に応じて評価も3ヶ月毎に行い、家族の希望や変化がある場合は随時見直している。		

グループホーム和みの家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合っ通院介助を支援している。医療連携体制を活かして、リハビリなど実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について、本人・家族に確認し、入居前の主治医に継続して受診できるよう支援している。定期受診の状況や結果は「今月の様子」で報告し、緊急時の受診は電話で連絡・報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携体制や、重度化や終末期については、対応指針を作成し、説明を行っている。必要時は状況を見ながら関係者と話し合いをする事になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員は、入居者の誇りやプライバシー確保について、やさしい言葉掛けや対応などに配慮し支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事・入浴・就寝など一人ひとりのペースを尊重して、希望にそって支援している。視覚障害者や重度な利用者にも、食事や入浴介助等、個々の状態に柔軟に対応している。		

グループホーム和みの家

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを聞いたり、季節の野菜を利用してメニューを決めている。調理の下ごしらえや料理の盛り付けなど手伝ってもらっている。さりげなく介助しながら、職員も楽しく、和やかに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望や体調に合わせて、基本的に入浴は毎日できるように支援している。入浴介助時は会話をしながら、くつろいだ気分で入浴してもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、料理の盛り付けなど入居者のできる事やできそうな事をしてもらっている。レクリエーションやカラオケなど楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺や近くの公園への散歩、買い物への同行、行事として季節の花見や遠足を実施し外出の機会を支援している。家族の協力をもらい自宅訪問する事もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。二つのユニット間は自由に行き来できるように工夫されており、安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会長の協力で地域住民にも参加を呼びかけ、定期的に夜間設定で防火・避難訓練を実施している。災害に備え、水や食料なども準備している。		

グループホーム和みの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望の献立や季節の野菜を利用し、食欲が増すよう配慮している。状況に合わせて刻み食を準備している。食事摂取量や水分摂取量はチェックし記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音量などは不快ではなく、トイレや浴室、台所は家庭的である。ホールには天窓があり、ロールカーテンで光を調節し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れたタンスや椅子など持ち込み、居室の壁には職員手作りのお祝いの色紙など飾り、安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。